

主題	数値管理による介護業務の見える化		
副題	～従来型特養における8時間夜勤の導入、グループケアの実践～		
見える化		グループケア	
研究期間	14ヶ月	事業所	(福)ウエルガーデン ウェルガーデン西が丘園
発表者：沼尾 真恵 (ぬまお まさえ)		アドバイザー：	
共同研究者：介護職員全員			
電話	03-5924-7711	メール	n-kaigo3-1@welgarden.or.jp
FAX	03-5924-7712	URL	http://welgarden.or.jp/nishigao

今回発表の事業所やサービスの紹介	平成25年6月より名称を変更。旧名称 社会福祉法人武尊会 特別養護老人ホーム西が丘園から 新名称 社会福祉法人ウェルガーデン ウェルガーデン西が丘園 となりました。ウェルガーデン西が丘園では「自然の温もり」「生きる喜び」を基本方針とし、通所・短期・訪問・居宅介護支援事業・在宅介護支援センター等の事業を施設介護と同様に積極的に取り組み、地域に根差した施設づくりを目指しております。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

【状況】

- 当施設の特養介護業務において「人手が足りない。」「ご利用者と関わる時間を持てない。」「夜勤が大変である。」等の項目が挙げられるが、実際にどのレベルにあたるかという指標がなかった。その為、上記項目に対し数値化＝介護業務負担量の見える化を図り、8時間夜勤を導入、業務改善をすることで、時間の確保、ご利用者へのサービスの質の向上を目指すことを目的とする。

【課題】

- 「人手が足りない。」という項目に対し、具体的な指標がない。
- 業務がルーティンワークになりがちで、個別対応の充実がなされていない。
- 会議、委員会等において、時間外での実施を余儀なくされている。

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

【目標】

- 8時間夜勤導入によるご利用者への時間の確保。
- 介護業務の数値化による、問題解決への見える化の実施。
- 個別担当制からグループケアへの変更及び書式の簡素化、統一による業務の標準化。

【成果・目的】

- 16時間夜勤から8時間夜勤への変更を実施することで、人手、時間の確保、サービスの質の向上を図る。
- 介護業務を数値化することで、誰もがわかる現状分析を実施。問題の抽出、解決への見える化を図る。
- 書式の簡素化、統一を図り、個別担当制からグループケアへ変更することで、個々のレベルに偏らないケアを実践する。

《3. 具体的な取り組みの内容》

- 対象者は特養及びショートステイご利用者全員とする。
- 16時間夜勤から8時間夜勤へ移行。介護業務の数値化による現状分析及び問題の解決。個別担当制からグループケアへの変更を実施する。
- 平成24年4月～現状分析を実施。同年6月より1フロアにおいて8時間夜勤を試行。その後問題が無い様であれば他の2フロアにおいても実施していく。
- 介護業務にかかる労働時間の数値化による現状を分析。問題点の抽出、解決に取り組む。16時間夜勤から8時間夜勤へ移行後は個別担当制からグループケアへの移行を実施する。
- 1フロア導入都度、介護職員全員にアンケートを実施。結果を踏まえた上で役職者を中心に業務の現状の分析、全フロアにおける書式の統一化、業務改善を図る。
- 役職者会議にて他部署へ8時間夜勤についての説明を都度実施。必要時、協力を依頼する。

《4. 取り組みの結果と考察》

- 介護業務を数値化することで、職員全員の目でわかる指標が出来た。
- 1日の最大出勤人数が17名から24名となる時間が設けられた。
- フロアでの行事が年間19件から27件に増大した。
- 書式の簡素化、統一を図ると共に、手厚い午後の時間で委員会、会議を実施。残業時間削減が可能となった。
- 個別担当制からグループケアへ変更することで、個のレベルに偏らないケアを実践している。
- 平成25年度7月よりグループケアへ変更。期間が短い為、排泄、食事等の数値による分析は継続中である。

《5. まとめ、結論》

- 「人手が足りない。」「ご利用者と関わる時間を持ってない。」「夜勤が大変である。」という意見は多くあがるが、実際の指標というものは存在しなかった。介護業務を数値化することで、職員全員での現状についての把握＝見える化が可能となった。上記を踏まえた上で現状を分析、8時間夜勤へ変更したことで、時間の確保、サービスの質の向上、残業時間の削減をすることを達成できた。今後も介護業務の数値化を継続、グループケアの長所を存分に生かし、ご利用者へのサービスの向上を目指していく。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

本研究において、情報は厳重に管理し、研究の目的以外には一切の使用を致しません。また掲載、発表にあたり、個人情報を使用する場合は、ご家族、ご利用者に同意を得た上で実施致しております。

《7. 参考文献》

《8. 提案と発信》

介護業務における正しい物差しというもの存在しない。よって業務を目に見えるもので表す事は困難である。だが、あえて数値に置き換え、誰でもがわかる現状、結果を提示することで、標準化、見える化を図ることができた。数値が全てではないが、改めて数字の大切さを痛感した。

【メモ欄】